

学校の教育目標「自らとりくみ 輝く佐見の子」



校報 さみ



白川町立佐見小学校
校長 佐伯 好洋
平成29年度 校報
1月号 (No. 11)

佐見小学校ホームページ <http://samisyo.town.shirakawa.gifu.jp>

引き継がれるもの

教頭 垣内 新子

「年寄り笑うな行く道じゃ」ということわざがあります。最近、このことわざを身にしみて感じる事が多くなりました。物忘れがひどくなり、しょっちゅう捜し物をしている自分はちょっと前の自分の母の姿です。同じ人に年賀状を2枚も書いていると祖母のことを笑っていた父が、今年は同じ人に2枚書いていました。人は同じような道をたどっていくのだと感じながら、自分のこれからの生き方を考えることがあります。

昨年末、2年生が年賀状を書きました。A君はおせち料理の絵を描く事に決めました。おせち料理を思い浮かべながら、描いていました。えび、きんとん、黒豆、かずのこなどどんどん描いていく姿にその子の豊かさを感じました。少したつと私のところに相談に来ました。「たつくりは？」と言うと「あっそうだ。」と描き足しました。何も見なくてもA君の頭の中にはその映像があるようです。他に何を描こうか迷っていました。A君は「あっ！そうだ。紅白なますとたたきゴボウ」と言って描き始めました。2年生の子が紅白なますとたたきゴボウを知っていることに感心し、その子のお正月の様子が思い浮かんできました。その家の祖父母、父母からたくさんのお話を学び、そして引き継がれているのだと感じました。

2学期の終わりに5年生のB君が全校児童に向かって「今日は2学期最後の日です。バスを降りるときには博文さんにきちんとお礼を言いましょう。」と言いました。きっとおうちの方のお世話になった方へ感謝する姿を引き継いでいるのでしょう。佐見の子の何気ない言動から、ずっと引き継がれている温かい姿を垣間見ることがよくあります。昨年11月に人権集会を行いました。その中で友だちに対する呼び捨てのことが話題になりました。相手を大切にするために呼び捨てはなくしていきたいと児童は話し合いました。あけましておめでとうございますひょっとしてこれも引き継がれたものなのかも知れません。

先を生きていく者は、後に続く者によいことを引き継いでいけたらいいなと思います。

